

いかに生きるか

時が経つにつれ 人は歳を重ね 生き辛さを背負いこむ
目が回るほど 狂ったように 世の中は変化を遂げる

若かりし頃
悩みも苦勞も 結構 充分に味わえた
夢は どこまでも続くと思っていた

今 私は
どこを見ているのだろうか
何を聞いているのだろうか
どこから 何を 感じているのだろうか

ふと 足の力が抜けた
地は 私を受け止め
雨が 穢れを洗い落とし
風が 頬を撫でた

生きるということとは
人が人を 裏切り 裏切られ 傷つけ 傷つけられ
負を背負い

これ以上 背負えなくなつて
独り静かに 息絶えることなのであろうか

ああ 誰か 私に一掬いの喜びを 与えてはくれぬのか
私は 誰かに 救いを求めては ならぬのか